

モンゴルの旧正月

モンゴルの最大の年中行事は、1年の始まりを祝う旧正月(旧暦の正月)です。人びとはヘビン・ボープ(写真①左:小麦を練って足型に固め、それを揚げたものを幾重にも重ね、砂糖や乳製品をトッピングしたもの)や、ヒツジの丸焼き(写真①右)を盛大に飾りつけて大晦日に食べます。

また、ポーズと呼ばれるモンゴル風シューマイをたくさん食べることもモンゴルの旧正月の特徴です。ポーズは旧正月の前に家族総出で作ります。千個単位で作られるポーズは、冬の-20度以下にもなる外気を利用して凍結させて保存しておき(写真②)、旧正月に食べるのです。モンゴルではゲルを訪問すると、訪問客をお茶や食事でもてなす習慣があります。そのため旧正月直前に渡航した際には、訪問したゲルのほとんどで旧正月のために作ったポーズをたくさん食べさせてもらいました(写真③)。おかげで私は食べ過ぎて5kg以上太ってしまいました。

旧正月は新年の挨拶の場でもあります。家族は全員新しい民族衣装(デール)を着て、年少者が年長者に新年の挨拶をしていきます。モンゴル人の間の伝統的な挨拶では、年下の人が年上の相手の両腕を支えるようにして、年上の人が年下のにおいを嗅ぐ、ウンセフと呼ばれる挨拶

が行われます(写真④)。挨拶をする際にいきなり相手の匂いをかぐというこの習慣は、ほかの国や地域では場合によっては失礼にあたることもあると思います。私はこの挨拶を目にしながら、どうしてモンゴルでこういった挨拶が行われているのかという疑問を感じました。人間文化研究機構の小長谷有紀さんによると、モンゴルではにおいのことをウネル、真実のことをウネン、価値のことをウネといい、モンゴル人にとっての挨拶とは、においによって真価を問う行為に他ならないのだそうです。

挨拶と匂いの関係といえば、モンゴルでよく行われる挨拶に、嗅ぎタバコの交換があります。とくに男性は、ほかのゲルを訪問するとまず自分の懐から嗅ぎタバコの容器を取り出します。そして、容器内の粉末を少しだけ左手親指の爪の上などに取り出し、これを鼻の下に運んで嗅ぎます。その後、ゲルの主人などと容器を交換するのです(写真⑤)。容器を交換することはタバコを交換することであり、今度は相手の嗅ぎタバコも同じように嗅ぎます。私は自分の嗅ぎタバコは持っていませんが、挨拶としてしばしば嗅ぎタバコを受け取ります。実際にやってみると、この一連の行程も初心者にはなかなか難しいものです。例えば粉を勢いよく吸いす

写真①旧正月の飾りとともに記念撮影



ぎておせてしまったりして、みんなの笑いものになることもしばしばです。実は嗅ぎタバコの香りは人によってかなり異なっており、人びとはその香りの違いを楽しんでいるようです。私がこれまで調査を行ってきたアフリカでも嗅ぎタバコはみられますが、そこでは自分のタバコを自分で嗅ぐのが基本でした。嗅ぎタバコを客と

交換するという行為は、ウンセフと同様に匂いにかかわるモンゴル人の独特の挨拶であり、このような挨拶が行われるようになった背景を知ることを通して、モンゴルについてさらに深く理解できるのだと思います。

手代木功基

118



写真②食料庫に保存してある冷凍ポーズ



写真③ゲル訪問時に出されたポーズ



写真④親子間でも行われるウンセフ



写真⑤嗅ぎタバコの交換の様子